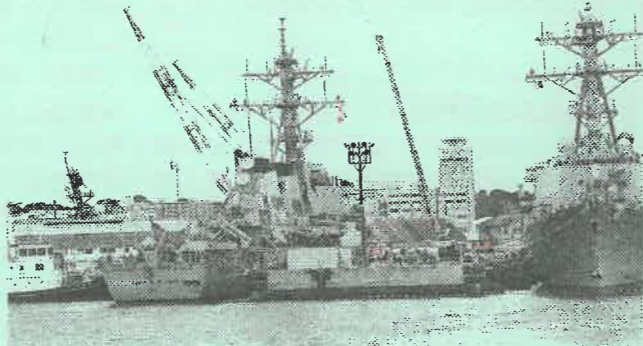


なければなりません。ですので、今回、声を上げてくださった加藤富美子さんはじめ請願者の方々には心から感謝いたします。マイナ保険証をはじめ、大軍拡に大増税、インボイス制度、福島原発のアルプス処理水（実質的には汚染水）海洋放出、自給率低下を始めとする日本の食の危機、世界規模の異常気象、旧統一協会と自民党の癒着等々、まばたきする暇さえないまま、今、

社会全体が不穏な空気に飲み込まれています。その中で行動を起こしてくださった勇気を讃えたいです。私は、子どもたちの未来にたちはだかるこれら暗雲の1つ1つを取り除き、日本で生きているポジティブな実感を取り戻したい。小さな市民同士で手をつなぎ合っていきたいです。（「ウィアクトこしがや」のS）

「横須賀軍港クルーズ」へのお誘い

横須賀は、近くて遠い街。昔はペリー来航の地でしたが、今では、実は日本で唯一の原子力空母の母港であり、日常的に原発を抱える街なのです。つい先日の9月も原子力空母ロナルドレーガンが出航前に原子炉内加圧器が故障し10日以上延期になりました。一たび事故でもあれば、南風が吹くとともに越谷市が放射能の被害を受けることになり、他人事ではありません。



星条旗・日の丸のイーゼス艦、潜水艦ばかり。入港時、奥まったエリアに停泊する原子力空母ロナルド・レーガンはなかなか見えない。2基搭載の原子炉は福島第一原発1号機の出力に匹敵するという。

弾薬庫も多数あり、市民は危険と隣り合わせに暮らしています。最近各地で水質汚染の問題となっているPFASは、横須賀では海洋汚染問題となって魚の体内に蓄積される危険が指摘されています。米海軍基地に隣接する海上自衛隊は、防衛力の枠を超えてアメリカ海軍に完全に一体化されています。その実態がクルーズ船上から目の当たりに目撃できます。

こんな横須賀軍港を、この機会に是非ご一緒に見学してみませんか。さらには夜の「どぶ板通り」を歩いてみませんか。お一人様大歓迎です。

市街中心部のほとんどは米海軍の基地であり、夜の「どぶ板通り」などは、日本の警察では取り締まられず、MPが取り締まっています。

機会があれば地元の九条の会のメンバーとの交流会も予定しています。楽しみにしていただき、厳密な定員はありませんが15名程度で締め切りしたいと思いますので、申し訳ありませんが先着順とさせていただきます。（石河秀夫）

街の不動産屋さんの看板はほとんど英語表記で、アパート家賃がどれも20万円以上と、驚くこと必至です。



「越谷九条の会」趣意

賛同者

1012人

(2023.9.30現在)

- ①政党・宗教を持ち込まない
- ②個人で参加する
- ③誰でも参加できる（住所不問）
- ④決定は極力全員一致
- ⑤個人情報以外の目的に使わない
- ⑥会費なし、カンパで運営

「横須賀軍港クルーズ」

- 日時：11月19日（日）
- 集合：越谷駅改札前 午前10：30
- 申し込み：石河綜合法律事務所 (tel.048-964-7511 fax.048-964-5180)
- 参加申込締切：10月31日
- 交通費、乗船代各自負担 (交通費2650円位・乗船代2000円) 各自負担
- 主催：越谷九条の会

殺傷武器 輸出反対 講演会

「武器輸出大国ニッポンでいいのか」

●講師：杉浦浩司氏

10/23(月)

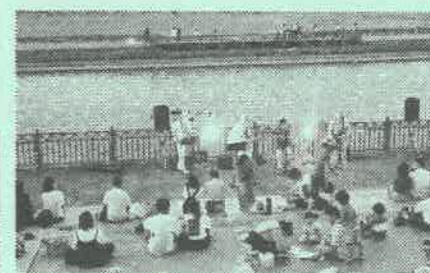
●会場：越谷市民活動支援センター会議室

18:30から

●主催：講演会実行委員会

越谷九条の会ニュース

事務所 〒343-0813 埼玉県越谷市越ヶ谷1-11-35 吾山ビルⅡ3F石河綜合法律事務所内
TEL.048-964-7511 FAX.048-964-5180 郵便振替 00140-3-426889 越谷九条の会



「平和を願う音楽と灯ろう流しの夕べ」が完全復活。1000人の市民が夕べの催しを楽しんだ。（P.2にレポート記事）

「アレ」

安藤博

●「9条！」だと退いちゃう

私の居住地千葉県市川市で行われたこの春の憲法集会は、「9条」を正面から打ち出すことなく他の法律問題で「くらしに身近な憲法」をアピールするというものでした。憲法といえば「9条」しか頭にない単細胞の私には、いささか気の抜けた感じがしました。

集会は、初めに「尊属殺人の重罰を規定した刑法第200条（尊属殺）は、憲法第14条（法の下での平等）に反し無効」とした1973年4月4日の最高裁判所判決について女性弁護士が講演。そのあと、講師と集会実行委員の女性との対談となり、「9条がいきなり出て来ると、みんな退いちゃうんですね」と、憲法をくらしに身近なものとしていくための苦心が語られました。

憲法集会なのに「9条」があまり表に出ていなかったのは、地元市・市教委の「後援」を得るため集会実行委員会が「政治的主張及び活動は行いません」と誓約していたためでもあるでしょう。私たち日本人にとって「憲法9条を守る」ことは「朝起きてご飯をちゃんと食べましょう」というくらいの当たり前であるはずですが、「特定の政治活動」とされるようであるなら、9条は「アレ」とでもしておく以外にはないのでしょうか。

●業界人の業界用語

沖縄・伊江島の阿波根昌鴻を顕彰する〈学習会〉が、コロナに妨げられ四年ぶりとなったことし三月の集まりでも、活動の本旨を言葉に表す事のむつかしさを知らされました。特に若者たちと交わす言葉についてです。

「沖縄を二度と戦場にしないために何をすべきか」をテーマにした〈学習会〉のシンポジウムで、辺野古新基地建設反対闘争のリーダー山城博治さんが若者と連帯していくことのむつかしさを、以下のように語りました。

今年2月26日に沖縄県庁前県民広場で「島々を戦場にするな！沖縄を平和発信の場に！」という緊急集会を開いたときのこと。「安保関連3文書は撤回しろ！」「島々各地の空港・港湾の軍事利用反対」など5項目のスローガンを緊急集会宣言にしようとしたのに対して、参加していた若者の中から反発の声が上った、「怒りや憎悪に満ちた世界にはついていけない。わたしたちは愛と安らぎを求めている」、さらには「あんたたちは業界人で、業界用語で話している」とまで言われた。

山城さんは言います、「確かにわれわれは業界人かもしれない。われわれは戦場には行かない、若者が行くのだ、そう思って運動を組み立てていかなければならない」と。大会スローガンの冒頭に「争うより愛しなさい

“Do not kill”という言葉をかぶせて、何とか若者たちとの分裂がないように緊急集会を収めたといいます。

●「ボロクソ」も褒め言葉

若者に「業界用語」と嫌われないような言葉遣いの工夫が必要であることは確かでしょう。ただ、問題が言葉遣いだけであるなら、それほど深刻な事ではなく十分折り合っているといます。そう思ったのはこの夏の甲子園、高校野球のテレビを見ていて、出場校応援団の高校生が「愛と正義」の鉢巻きをして太鼓をたたいているのを見た時です。

集会スローガンに使う言葉などで若者と違いがあるのは、むしろ当然のことです。言葉は動き変わっているのです、何より若者たち同士の会話など。女子高校生たちがわいわい話しているなかで、ひとりが「先生にボロクソに褒められちゃった！」と喜んでるのを聞いて驚いたことが、先ごろの新聞コラムに書かれていました。「めっちゃヤバイ」「ぜんぜんダイジョーブ」などもそうですが、否定的言葉である「ボロクソ」が褒め言葉に逆転したりしているのです。それでも、たとえば「9条を壊すな！」の「壊すな！」には「ついていけない」と言う若者も、自民党が執拗に企てている壊憲を阻

止しようとする思いは、「業界人」と言われかねないわたしたちと通い合えるでしょう。

●「アレ」なんて退いてはられない

17年間優勝から遠ざかっていた阪神タイガースのファンは、優勝の悲願をあからさまに言うのを控えて「アレ」と言ってきました。しかし、「戦争の放棄」を謳った憲法9条を守るという一点でまとまって行動する私たち〈9条の会〉は、「アレ」などと行動目的をぼやかしているわけにはいきません。何より、自由民主党は改憲を党是に謳い、また改憲を声高に叫ぶ傍ら国会パイパスの内閣手続き（閣議決定）だけで集团的自衛権行使、外地先制攻撃までを決めて実質的には憲法9条の規範を踏み超えしまっているのですから。

ひごろ憲法9条のことを考え護憲の集まりに参加したりすることのない、つまり私たち〈9条の会〉の外にいるひとたちの共感を得るための言葉遣いを、よく考えなければなりません。私なりに言えば「日本の政府が、税金で作る軍事組織を外地に出して殺し殺される戦闘行動を行うことは許さない」のが「9条」です。そのことを「アレ」などと腰を引くことなく、自由民主党に負けな

第18回 平和を願う音楽と灯ろう流しの夕べ 越谷の夏 1000名の市民が楽しむ

8月5日、「第18回平和を願う音楽と灯ろう流しの夕べ」を開催した。越谷九条の会が結成された直後の2005年から、コロナ禍で20年、21年の中止を除いて続けてきた行事だ。5月に実行委員会を立ち上げ、ポスター制作、パンフ作成、出演者との交渉、会場設営準備、出店者や後援者への依頼、捨て看板作り、設置など大忙しの3カ月を経て、何とか当日の開催にこぎつけた。会場は中央市民会館の芝生広場と葛西用水。

当日も猛暑で、各自治会の夏祭りとも重なり、観客の集まり具合が心配だったが杞憂だった。夕方受付前の17:00頃には灯ろう購入者が列を作った。200個用意した灯ろうはほぼ完売。コロナ禍で外出に気を使う中、身近でこのような催しがあることに関心を寄せられたのか、1000名と予想以上の人が参加してくれた。特に小

さな子供連れの家族が多く、お父さんと一緒に「灯ろう」に絵を描いたり、思いを込めた言葉を書いていた。流された「灯ろう」は葛西用水の川面に浮かび、幻想的な越谷の夏を演出した。

芝生広場ではプロ歌手大岩ファミリーのコンサートやフラダンス、ハワイアンバンド、素敵なピアノ演奏を楽しんだ。ある若い子供連れの夫婦は、このような企画に「感謝したい」と言ってくれた。平和の尊さを考える機会になってもらえたら嬉しい限りだ。

幼稚園に頼んでトレーシングペーパーに絵を描いてもらい、キャンドルナイトとして会場の階段に飾る。夕暮れの中、美しい空間を彩る。おじいさん、おばさんと一緒に来た男の子が「これは僕の絵だ」と嬉しそうに指さす。



コロナ禍で昨年出来なかった出店も今年は再開。ビール、スイーツ、焼きそば、揚げ物、カレーなど完売。出店料を売上の一割カンパしてもらっているが、おかげで黒字決済になった。

多くの市民に楽しんでもらったことに安堵している。今や越谷の夏の風物詩になった「灯ろう流しの夕べ」を

これからも続けていきたいと思っている。実行委員メンバーが高齢化しているの、若手へのバトンタッチが今後の課題だ。

後援は越谷市、東京新聞、埼玉新聞、東武よみうり新聞。(石山博)

報告 越谷市議会の常任委員会で話してみました

★ 請願の趣旨 沖縄を再び戦場にしないために、軍事よりも平和外交を展開するよう意見書を上げてください★

9月19日、私は市議会の総務常任委員会に出席し、参考人として沖縄のことで発言しました。共に出席した辻智恵子さんは「南西諸島への自衛隊のミサイル配備はやめて欲しい」と懸命に訴え、石河秀夫弁護士は憲法をもとに持論を展開、外交の重要性を説きました。

私は自分の体験を元に話しました。10歳の頃、群馬の相馬が原演習場で米兵ジラードが空の葉莖を拾っていた主婦を射殺。殺されたのは従妹の家の隣に住む子沢山のおばさんでした。裁判でジラードは執行猶予になり、さっさと帰国。子供心にも日本はアメリカの家来かと悔しかったし、沖縄で米兵による犯罪のニュースがあると、このことを思い出しました。

それと、長女がやむなく横田基地の側に住んでいた頃、病弱だった初孫の看病に足繁く通い、米軍機の轟音に襲われるたびに孫を抱きしめたこと。その後沖縄を訪

れ嘉手納基地から飛び立つ最新鋭のステルス戦闘機を見て、人々の苦しみが胸に迫ったこと。また、チビチリガマの集団自決跡では、あたりに漂う靈気にしばらく目があけられなかったことなど。

明治時代の琉球処分以来の差別に耐えた沖縄は、先の戦争の終わりには米軍との唯一の地上戦となり、4人に1人が亡くなった。本土復帰後も基地は日本全体の7割もあり、しかも辺野古の軟弱地盤の造成に莫大な予算をつぎ込んでいること。この上自衛隊のミサイル防衛で島民を危険にさらすより、平和外交を本気で重ねてほしいと訴えました。

幸い、この委員会では4対3で採決されましたが、26日の本会議では10対20で否決されてしまいました。党派にかかわらず、誰もが平和裡にことを進めてほしいと願っているはずなのに残念でした。

「この採決を見届けてから」と入院を一日延ばした辻さん、ほんとお疲れ様でした。早く良くなってください。(倉橋綾子)

Table with 2 columns: Date and Activity. Title: 活動報告2023年7月~9月. Includes items like '会報78号発行', '226回運営委員会', '第5回灯ろう流し実行委員会', etc.

Table with 2 columns: Date and Activity. Title: 活動予定2023年10月~12月. Includes items like '九条大集会 (なかのZERO) 19:00', '会報79号発行', '229回運営委員会', etc.

Table with 2 columns: Income/Expense and Amount. Title: 会計報告. Includes items like '収入の部' (雑入金, カンパ, etc.) and '支出の部' (ニュース・チラシ印刷, 用紙・作業代, etc.).



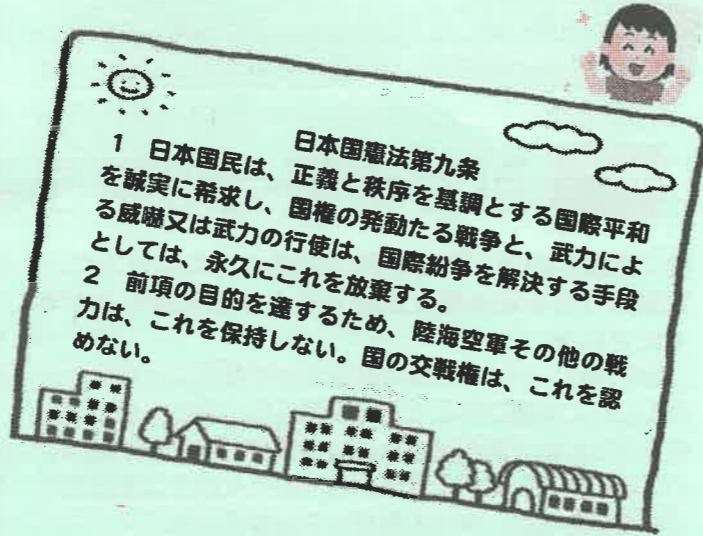
第18回協働フェスタ「9円コーヒー」と「大声コンテスト」は大人気！

9月9日（土）、10時から15時まで、中央市民会館全館とその前庭で、第16回協働フェスタが開催されました。この主催は協働フェスタ実行委員会、こしがや市民活動連合会と越谷市が共催するものでした。これには市内で活動して去る85団体が参加し、越谷市における一大イベントとなっています。今年も越谷九条の会も参加しました。

越谷九条の会は『9円コーヒー』の販売と『大声コンテスト』の催しで参加しました。

中央市民会館のお湯を8ℓのやかんに受け、それをテント内にセットした電気ポット2個にうつし、注文されたら早くコーヒーを出せるように準備。お湯を運ぶのは力持ちのKさん。コーヒーをいれる担当は例年通りベテランのFさん。「たったの『1杯9円』のコーヒーなんて信じられない！」と不思議がるお客様には、「憲法9条を生かすことの大切さを知って欲しいので、大赤字覚悟で『9円コーヒー』にしているのよ」と呼び込む中心はYさん。何と、242杯も売れました。

中央市民会館玄関前の広場で行われた『大声コンテスト』には20人の応募があり、様子を見に集まった観客からは「ガンパって！」と大きな声援。1等賞はご当地アイドルグループ「クロワッサン」の10代のA子さん、1等賞品は『豪華防災バッグ』、「わあーうれい」と大喜び。2等賞は『コーヒー詰め合わせ』、3



等賞は『お菓子セット』、平和賞は『LED懐中電灯』、ユーモア賞は『カップラーメン詰合せ』、残りの15人には参加賞として『菓子詰合せ』を渡しました。

この大声コンテストが今年の「協働フェスタ」の最後を締めくくりました。山田裕子市議は司会で催しを盛り上げてくれました。

この日は市民活動支援センターで「第12回ななサボ祭り」が同時開催されました。 (飛山幸夫)



協働フェスタ名物となった「大声コンテスト」(左)と「9円コーヒー」

越谷9条ウォーキング

●9:30大袋駅西口集合→9:45出発→梅林公園→北越谷駅さくら広場→12:00頃越谷駅前広場頭→中央市民会館芝生広場で昼食

大袋駅西口
午前9:30集合
9:45出発

11/11^土



●主催 越谷九条の会/オール越谷市民アクション
●連絡(当日も)090-4010-1334石山へ

おひとり参加大歓迎！
申し込み不要。途中参加、退場もOK。

越谷市議会でマイナ保険証による保険証廃止の中止を求める請願が却下

ここから見えてきた越谷市議会・地方議会の問題点

「ウィアクトこしがや」は、改憲勢力が3分の2を超えたことに危機感を覚え、この現状をなんとかしたいという思いから結成された市民グループ。社会のさまざまな問題を日常会話で語り合い、考え、行動する仲間たちの集まりで、憲法、政治のことから環境問題、日常の問題まで、憲法ミーティングや議会報告会、講演会の開催などの活動によって、草の根からの発信を続けています。今号に向けて、誰もが身近な問題であるマイナ保険証による保険証廃止問題をめぐって、地方議会での議論のあり方、市民の関わり方に関する投稿がメンバーの一人からありました。匿名ですが、投稿として掲載します。

はじめまして。「ウィアクトこしがや」のSです。先日、「保険証廃止の中止を求める意見書を国に提出することを求める件」を傍聴しました。この請願は残念ながら不採択となりましたが、越谷市議たちの仕事ぶりについて色々な発見がありましたので、皆さまと共有したいと思います。

マイナ保険証の全国利用率5%割れという中、越谷市において市民の声が却下されたこと、率直に失望します。国に声を届けてくれて頼めるのに、じゃあ、市民はいったいこの誰に不安を訴えればいいのか？ 越谷市はただ国のいいなりになるだけ？ 議事進行は終始盛り上がり欠け、委員長の白川秀嗣議員が質問を促しても、議員たちからの発言はほとんどなし。これでは小学生の学級会の方がよほど活発です。「中止」では強いか「一時中断」とか「延期の検討」はどうかとか、着地点を見出せそうな文言が探られることもないまま、予定調和の委員会は終了。結局、請願に賛成したのは、立憲民主党・小口高寛議員と日本共産党・山田大助議員の2人だけ。市民の声より国の意向を重んじた越谷市議会の姿は、はからずも、地方自治の力の弱まりを露呈していました。

少ない質問の中で印象的だったのが、自民党・伊藤治議員の「越谷市ではトラブルが報告されておらず、市内の医療機関の8割はすでにカード読み取り機が導入されているから理解されているのでは？」と、公明党・藤部徳治議員の「マイナ保険証にもメリットはあるのでは？」という質問でした。

まず、伊藤議員のこの発言。越谷市でトラブルゼロだからマイナ保険証は大丈夫…？ 猛烈な仕事量を完璧にこなしている市職員の方々には頭が下がりますが、自民党のこうした危機意識のなさこそが国民の不安をかきたてていることが、今の自民党にはわからないようです。そもそも医療機関がカード読み取り機を導入しているのは、マイナ制度に対する理解からではなく、すでにマイナ保険証を取得した約半数の被保険者が使えるよう環境を整えただけのこと。それをあたかも制度への理解だと語るのには、実にトリッキーです。逆に、国の強引なやり方の下でさえまだ2割が導入していない理由をこそ深刻にとらえるべきです。カード読み取り機に出ている補助金は今年

4月から自己負担となりました。設置しない医療機関には「保険医を取り消す」という恫喝まがいの警告まで出ています。となると小さな医療機関のひっ迫は目に見えています。町のかかりつけ医を頼る市民はどうなるのか、伊藤議員が事態をきちんと理解できているようには思えません。

また、公明党・藤部議員の市職員への「マイナ保険証にはメリットもあるのでは？」という質問も、本来メリットを聞かれるべきは制度利用者である市民に対してが妥当だし、全国的に多発している設計不備をカバーしているのは他ならぬ自治体職員なのだから、なおさらその矛先がズレています。それともマイナ制度は行政側にとってメリットがあるという露骨な意識の表れ？ しかも、高齢者ほどおきざりにされやすいデジタル化社会において唯一出たのがこのような問いかけとは。少なくとも公明党はもう福祉の党を名乗るべきではないと感じました。

さらに腑に落ちなかったのが、自民党・よこいきよみ議員から質問が1つも出なかったこと。よこい議員は助産師というプロフィールを全面に打ち出し、自民党所属ということは明言せず、この春当選しました。本来、医療現場については他のどの議員よりも知っているはずなのに、現状認識について一言も語らずじまい。ご自身が医療従事者であることを積極的にアピールして議員になったのですから、保険証に関する市民の請願に対しては、より踏み込んだ、より主体的な意見を述べるべきです。そうでなければ私たち市民は何を基準に議員を選べばいいのか、その根拠を失うこととなります。デビュー半年で注目していただけに、がっかりしました。ほかに、公明党・畑谷茂議員、刷新クラブ・松島孝夫議員も質問せず。ちなみに、松島議員は自身のホームページで「積極的に市民の声を聞き、政策に反映させるしくみを作る“市民目線の町づくり”」を掲げています。

議員は市民の代弁者です。議員である以上、賛否の立場はあれど、一市民の声にはまず耳を傾けて、真意を理解し、有機的なアティテュードを示すのは、議員として最低限のたしなみだと思います。そのためには、市民の側にも、議員たちの一挙手一投足を見守る必要があります。これは合わせ鏡であり、政治家たちに言葉を取り戻してもらうためには、まず、私たち市民も言葉を磨か